

## 卒業40周年記念同期会報告

### 司会

まだ3、4名お見えになっていない方がいらっしゃいますけども、昭和38年卒、修道高校第15回卒業生の同期会を開きたいと思います。

今年は昭和で言えば78年、私達が昭和38年に南千田町の学び舎を後にして丁度40年と言う事で、中学入学した人からみれば46年と言う事でほぼ半世紀になります。そして多くの方は来年還暦を迎えます。

急遽呼びかけましたところ、84名の方に集まっていただけました。県外からも十数名の方、それから大変お世話になったり、ご面倒をおかけしました恩師の先生方も5名の方に駆けつけていただきました。

ただ今より修道高校第15回卒業生の同期会を始めたいと思います。

申し遅れましたが、本日の司会を勤めさせていただきます三宅と申します。同期会では無名の新人です。ある世界では結構有名なのですが……。と言う事で、若干私の自己紹介をさせていただきますと思います。

出身は三次です。何故か昭和35年、幟町中学校から憧れの修道高校へ入学いたしました。卒業時は3年6組で、担任は林先生でした。

高校時代を一言で言いますと、南千田町は非常に暗い3年間でした。そういう意味では余り良い思い出を持っていませんが、大学卒業後、RCC中国放送に入り今日に至っております。決してアナウンサーではないのですが、何故か幹事からお前やれやれという事でご指名を受けました。

先ほど受付等をやっておりましたけども、知らない方がほとんどという事で、如何に交友関係が薄いかという事を自ら何となく感じているところです。

先程申しましたように修道時代は決して良い思い出はありませんでしたが、40才の時ですか、厄年で厄落しをやるという事で護国神社へ参ろうと、その時に声をかけてもらって以来、同じクラスでない多くの方々とも付き合うようになりまして、仕事で助けていただいたり、あるいは遊びで楽しくやらせていただいたりしております。そういう意味では、今は本当に良い学校を卒業したな、学ぶ事が出来たなというふうに感謝しているところです。

ここで会長あいさつという事になるのですが、その前に私たちのこの40年間、高度成長期、バブル期、そして失われた10年プラスアルファと言われる今日まで、何とか我々は生き抜いてきたわけですが、残念ながら今日を迎えることが出来なかった友人、それに鬼籍に入られた恩師の方々がいらっしゃいます。ここでその方々を偲んで黙祷したいと思います。では、ご起立ください。

黙祷。

・・・・・・・・・・・・・・・・

お直り下さい。ありがとうございました。

それでは開会にあたりまして、我々15回同期会会長であります藤原正孝君があいさつを申し上げます。

### 藤原会長あいさつ

お久しぶりでございます。今日は竹腰に入れてもろうた歯の具合がやや……。それに今日は舞台に立たにゃいかんのんでネクタイを考えとったんですが、毎日が日曜

日の生活になったばかりなので。毎日行くところがないのも辛いものでして、それでやっぱりそんな風体をしようと思ってこういう形になりました。大変失礼とは思いますが、まあ敢えてこの格好できました。

会長・・・、本人とすれば色々と問題がありますので、その経緯をちょっと申し上げたいと思います。実は林先生にどうしようかと思うて相談した事があるんです。それで、「そりゃ会長をやってみにゃ分かるもんかい」と言われたんです。そりゃそうですよね。やらしてもらった形になるんですけど、それで会長（会社の会長と同期会の会長）と縁ができて、37歳から、もう20年以上会長職でやっております。会長も何かと大変なんです。何にもせんでもええ役なんですけど、気ばかり使こうて思うようになりませんでした。それでとうとう半分自棄を起こしまして、「もう辞める」と言う事になり、7月1日から行くところがない生活を送っております。

何もすることがなくて、この3日は孫が帰ってきたもので、その相手を一生懸命しました。もう、エネルギーが余り残こつたらんぐらまでしたんです。まだ仕事で随分活躍されている方もおられると思いますが、私はそんな事で舞台からとにかく飛び降りる時の気分なのです。だから今日の挨拶が最後の舞台と思っております。

先の当てが全くないくらいなのですが、とにかく向こう1年くらいブラブラしてみたいと思っています。会社勤めしてから、人よりも何年もはよう仕事をせん暮らしをしたいとずうっと思っていた関係もありまして、ちょっと夢を広げていました。辞めてから、まだ1ヶ月半なんですけど、頭の中の整理が忙しくて、家の中でやると邪魔になるし、出掛けようにも行くところはないしと言う事で大変困っております。現役の方には非常に失礼なんですけど、私は今そんな思いでやっております。

一応自分とすれば、世間的な義理と言うと生意気なんですけど、それは果たそうと思っています。皆さんも寄付されたと思いますが、修道も今度は新しい校舎になるんですけど、その寄付も目標額を超えました。目標が3億5千万円で3億7千万を超える金額が集まりました。私はこの募金の委員をしていましたので目標額をこえ一安心しているところです。

今日、広陵が負けましたけれども、昔は修道のサッカーも強かったんですがね。長い間に何かと色々には変わるようですね。私も出来れば1年ちょっとすると、もう一遍若返ってみたいと・・・。つまり気兼ねせず何とか面白い事をやってみたいなど、今は当てがないのですけれども。1年か1年半くらいすれば、なんとかなりやせんかなと思っています。

私は佐藤先生が担任だったのですが、久し振りに先ほどちょっと聞いたところ、佐藤先生は随分重い病気を随分やられたそうです。それも5つに余るくらいで、それでも元

気そうにしていらっしゃるんで、一つ自信になりました。

実は私は人に会うたびに、「お前は痩せとるのー」と言われるのが何十年続いているんです。先生と言うのはありがたいもので、街道先生が痩せていることを褒めてくださるんです。贅肉がないので肉体美とおっしゃるんです。この言葉が今日は取りあえず一番の収穫でありまして、もう一つ元気を出してやろうと思ようになりました。

では、昔話に花を咲かしてください。

## 司会

ありがとうございました。本日は恩師5人に出席していただいております。当初6人の予定でしたが、東先生が身内のご不幸でちょっとご都合が悪くなられて、5人の

先生にご出席いただいております。

先生からはご厚志をいただいております。有り難うございました。

それでは順不同ですが、先生方から私たちの世代の思い出、それにご自分の近況、それから分かりますれば現在の修道の事などを含めてごあいさつをいただければと思います。

順不同でお願いします。

街道先生おねがいします。

## 街道先生あいさつ

皆さん、こんばんは。今日は大変うれしゅうございます。僕が初めて担任した学年ですので、何と言っても一番思い出があります。話せば非常に長くなりますので、「挨拶に代えて」と題したものを印刷しました。

僕の思いを話せば一時間以上になって、ホテルの方から早く帰れと言う事になりますので、皆さんの健康をお祈りしまして挨拶に代えさせてもらいたいと思います。

大変貴重な時間をありがとうございます。

## 挨拶に代えて

貴重な今夜を大切にしたいので書面をもって挨拶に代えます。

顧みれば、諸子は修道卒業後40年経てはや還暦を迎えんとしています。私はこの2月古稀を迎え、それなりの感懐を覚えました。参考になれば幸いです。

2月初め大雪の中、娘の指示どおり城の崎温泉へ出かけました。宿にした「西村屋本館」の裏正面が桂小五郎が逗留した「つたや」。そのすぐ左手に志賀直哉が電車事故の後養生のため泊った「三木屋」。「城の崎にて」は大正6年に書かれた。総三階造りの建物には小説どおり今も羽目板が貼ってある。寂れた庭の雪かきをしている老人に聞いてみたが建築時親は知らなかった。直哉がここで3週間過ごし、蟻や屋守や鼠の最期を見て「あるがまゝ」を悟ったことは高1の教科書にありました。

八甲田山の雪の回廊が開通した4月1日、青森市で開催された全国数職員ベテラン卓球大会に出場していました。試合の合間に円山三内遺跡、ねぶたの里、棟方志功記念館などを回り、ねぶたの重量感、志功の太い線に縄文を経て栄えた蝦夷の血を見た気持ちになりました。人だけではなく、帰途通った雪の回廊を突き抜けて空にかがやく赤松林の不屈の表情は瀬戸内に育った私を圧倒しました。

5月下旬、東京21修道会に招かれて伊豆の伊東へ。45分の授業が義務づけられました。私は、この春の桜がことに美しく思われたのでその理由を考察し、小学校1年生の読本の最初にある「サイタ サイタ サクラガサイタ」を教材に話した。夕方、宴会の始まる前に45人全員の感想が一筆ずつ寄せられた。二次会でも朝食時にも私を喜ばせる感想が個々に聞かれる。私は、修道の「尊親敬師」は徳目ではなく一種の人間の美学だと思いました。

8月1日、全国教職員卓球選手権大会（新潟）の合間に良寛の生誕の地出雲崎へ行きました。母の里佐渡に向けた良寛の座像を念入りに見ました。情に厚い、無為の中に充実した生、鳥を聞き月を眺め、花を摘み子供と遊び…、興味深かったのは70歳からの貞信尼との恋。閉塞感に満ちた現代社会の裏面に本来の日本人の心があることを教えてくれました。

定年を迎えて、進学校修道から解放された喜びは確かでした。2人の子供もそ

れぞれ独立し家庭からも解放されたと思った。あれから10年経って今、修道の真の教えは自己からの解放だとわかりました。「あるがまゝ」も蝦夷の血も人間の美も良寛もそれぞれ「率性之謂道」が出发点だと思います。

還暦にあたって、諸子の座標軸を確認していただきたいと思います。

(H15. 8. 16)

司会

続いて佐藤先生お願いします。

佐藤先生あいさつ

こんばんは。本当に久しぶりです。

さっき藤原君が、私が大病したと言いましたように、私は一昨年暮れから9回入院して6回手術しました。ガンを2つと狭心症を3つ、それに肺血栓症です。それで1回死んだのです。

肺血栓症と言うのは、とにかく自分では何も分からない。息も止まる心臓も止まると言う事で、気がついたらお医者さんが囲んどって、生き返ったという状態でした。それから以後はちょっとやっぱり心配で、何かあるとこれは肺血栓症か、あるいは狭心症か、心筋梗塞が起きるんじゃないかと考え、あまり無理をしないようにしとるんです。

昨日も24回の同窓会があったのですが断りました。同窓会は正月にいつも4つか5つの案内が来るのです。1日、2日、3日にかけて。しかし、病気をしてからずっと断っています。ただ15回卒だけは、修道に入って、中1から高3まで担任を持って最初に卒業させた学年です。修道で9回卒業をさせていますが、15回だけは忘れられないですね。だから、この回の時だけはどうしても出たくなります。それで今日は元気を出して来たわけです。

見た目は元気そうですが、毎週決まって病院へ行って検査を受けております。それからちょっと自慢になるんですが、上の孫が水泳をやっています。女の子です。かなり頑張っているのです。インターハイも優勝し、国体も優勝し、日本選手権も2回優勝して、一昨年の福岡であった世界選手権でも決勝まで残りました。と言う様な事で頑張っているのです。今年は勉強の方が忙しいと言う事でちょっと休んでいるのですが、それでも日本選手権で3位に入ったから、まあ来年まで頑張って、オリンピックに出たいと言っています。このオリンピック出場は無理かも知れませんが、それだけを現在楽しみにして生活しているような状態です。今は家内と二人でのんびりやっております。

本当に15回の皆さん顔を見て懐かしく思います。今日はどうもありがとうございました。

孫の名前は佐藤綾音と申します。(「先生、お孫さんのお名前は」という質問があって)

司会

ありがとうございました。それでは林先生お願いします。

林先生あいさつ

皆さんこんばんは。卒業40周年おめでとうございます。

今の佐藤先生のお孫さんは佐藤綾音さんで、400メートル個人メドレーです。だからすごいものです。いつも新聞で見て心から応援しておるわけです。

私は5年前まで講師で出ていたので、修道には全部で46年おりました。皆さんのおかげで3億5千万円の目標だった寄付は、3億8千万円集まったと昨日校長から聞きました。よく集まったものであります。

それから学年の先生についてですが、学年主任の辻井先生は、聞くところによりますと6月頃、自転車に乗って転んで怪我をしても、また自転車に乗って病院に行きよるといふことのようなのです。もう乗らんのかと思えば、まだ乗れるぐらい・・・のようです。それから東先生は、今日は飛び込みの急用ができて来られなくなりました。能宗先生は、こういう先生達のOBの会にも余り来られなくなり、ほとんど見たことがありません。

私は昔は中1の1組担当で、2組が東先生、3組が能宗先生、4組が佐藤先生、5組が大池先生、6組が街道先生でした。水泳はいつも1組が優勝していて、3年間完全優勝したのが自慢であります。

今度は私の事ですが、私はこの4月から100人余りの老人会長をやれということで、年中忙しいのです。それで1週間に1回、ボランティアの公園の掃除をし、週に2回はグランドゴルフをして何かと楽しんでおります。身体のために、それから皆の親睦を図るために一生懸命楽しんでやっております。

酒は一日に換算したら5合くらい家で飲んでいきますね。毎日です。欠かしたらいけないのです。おかげさまで、肝臓の数値も皆良いんです。本当に元気であると言う事は非常にありがたいことです。

皆さんも元気にこれから頑張ってもらいたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

(林先生は円周率を1000桁まで覚えておられ、担任をされた中学1年1組の全員の氏名を名簿順に今でも言えるのです。その抜群の記憶力はいつまでも衰えることがないようです)

## 司会

今日参加しているお医者さんで何か反論のある方は・・・。

それでは田中先生お願いします。

## 田中先生

### ご挨拶

皆さん今晚は、しばらくでございます。修道高校卒業40周年記念同期会にお招きくださり、有り難うございます。懐かしく、嬉しい夕べであります。

私は皆さんの高2の時から、担任として学年に仲間入りさせてもらいました。暫くは新米教師のような緊張の日々を過ごした、というような思いがあります。しかし遅れて仲間入りをし、選択科目の担当ということもありましたが、皆さんとのご縁が生じ、その後の交流も続いて今日に至りました。

修道学園を定年で退いて、もう13年が経ちました。ここまできると、一年一年「修道」が遠くなっていく思いがあります。しかし一方、全く矛盾しているようではありますが、毎日一回以上、「修道」(修道高校や卒業生に関することなど)が眼や耳を通して見えたり、聞こえたりするのです。自分自身の中でも、ご

く自然にいろいろな事が浮かんでまいります。15回の皆さんのことに限れば、毎日ということではないようですが、少なくとも一か月に一回以上は、見たり・聞いたり・現れたり、であります。

まことに、今更ながら「修道」とのご縁の深さ・重さを覚えずにはられません。「修道」は遠くなっても、忘れ去ることはできないようであります。

ところで、皆さんは年齢が人生の大きな節目である60歳に近づいておられます。数年来、皆さんの先輩たちの「卒業40周年記念同期会」に招かれることが二度ありました。その二度とも、誰かから「来年は還暦です」と語られました。今晚もありました。私は、「卒業40周年記念同期会」は「還暦」と深く関わる同期会ともいえる、と気付きました。

60歳の指標と言えるような言葉としては、「耳順」や「隠居」などもあります。『還暦』はいわゆる賀寿の最初の名前であり、めでたい言葉であります。しかし、「人生五十年」の時代が過ぎ去った今の日本の社会では、その意義は素直には受入れ難くなっていると思います。「耳順」も「隠居」も五十歩百歩であります。

人が60年を生きるということは、本当はかなり長いのであるし、大変なことですね。長さとともにその重さが大事だと思います。60年という人生の大きな節目に達した人を称え、これからのなお長い活動を励まし、祝うのに最もふさわしい指標の言葉が欲しいものです。現代の日本社会の中で「還暦」が近づきつつある人々の心の奥には、そのような思いも潜んでいる筈、と思うのです。

『論語・為政』には孔子の自伝（まことに短い）として有名な章があります。私淑する碩学（8年前逝去）の批評の一部を紹介させていただきます。

『孔子の一生を表す放物線の頂点は五十歳の天命を知る時であろう。……。どんなに人事を尽くしても何か不可知の理由で思う通りに事が運ばぬことがある。それが天命、天の作用であった。さればと言って努力をやめるわけに行かぬ。成敗を度外視しての奮闘が、孔子の最後に到達した覚悟であって、実際にこれ以上の人生観は考えられないのではあるまいか。』

「五十にして天命を知る」（「知命」）——私は皆さんにこれを、「六十にして天命を知る」、と十年ずらして役立てて（学んで）くださることをお願いしたいと思います。

皆さんのこれからの一層のご健康・ご活動、そしてご多幸を願って止みません。また、皆さんの元気再生の拠点としての「15回同期会」の益々のご盛会を願って止みません。

以上

[追白（お詫び）]

同期会当日、私は愚かにもご挨拶の用意をすっかり忘れておりました。それで、いささか余裕を失い、勝手にオフレコ気分になって、支離滅裂の漫談のご挨拶をしてしまいました。後日、幹事さんから文章として公開するから、訂正箇所を連絡してくれるようにとのFAXが届き、大恐慌に陥りました。支離滅裂は、訂正でなく、別に書くか廃棄するしかありません。ご親切を得て、書くことになりましたが、天候のこともあって体調を崩してしまい、長い日数を経て「ご挨拶」を書いた次第です。従って、当日の漫談のご挨拶は廃棄とさせていただきます。

どうか、ご海容・ご了解ください。

## 司会

ありがとうございました。  
最後に吉崎先生お願いします。

## 吉崎先生あいさつ

こんばんは

昭和 34 年に母校である修道に就職しまして、君達中 3 でなく中 1・中 2 を教えたのです。

高校になってよく中 3 時の話がでてきたのですが、そういう訳で、その時は全然話に乗れなかったですね。

君らの担任は高 1 から持ちました。僕は昭和 11 年生まれ、君らはほとんど 19 年生まれで同じ 10 年代だから、友達みたいなものよということで平生の付き合いも友達関係のようなものでした。だから先生と言われると止めてくれと言う感じでした。

あの頃の思い出も、ある組の前を通ると求平君や森谷君とかが教室から出てきて寄ってらっしゃいとか何とか言って、教室に引きずり込まれそうになって目的のクラスになかなか行くのができなかったこともありました。

色々ありましたけれども、何かこう、これを教えたあれを教えたとか言うよりも一緒に面白い話をし合ったという思い出の方が多いです。

「もうちょっと先生ここ点を上げてくださいや」

「なんでや、もうちょっとええ点を探して来いや」

「この辺をよけい書いておるでしょう。だれだれ君はちょっとしか書いとらんのに 5 点もある。わしはいっぱい書いとるのに点がないじゃないですか」

「もうちょっとよう読んでからプラス点になるようなことを探して来い」

ある奴が、「先生、僕お姉さんが居るんです」。また何時の間にか、よその組で姉さんがいるのが効くらしいとか言うて、しょうもない話ばかりが後に残って。それに尾ひれをつけて、姉がいたら点をくれたらしいとかいわれましたね。

今、僕は YMCA で教壇に立って授業するとぶっ倒れてはいけないので、ノートの英作文の添削で、ノートの添削した部分を、座って目の前で説明したり、ここが分からんと言うと、そこで課題をやらせたりするような授業をしよるんです。こうしたことで、幸い若い人との付き合いがあるから気分だけは……。モウムスが何かとか V6 (ブイシックス) とはどういうものかとかいうものがおかげで分かるようになりました。せめて気分だけは若く保たねばいけないなと思っっているわけです。

さっきの話の中で大池先生が出ていましたが、70 を過ぎられても、まだ現役で安田で英語を教えておられます。だから安田から来た生徒は大池先生とは言わないで、おじいちゃんに習うたんよとか言っているんです。3、4 年くらい前までは、数学の田中喜久治先生も安田で教えておられました。

YMCA では僕の場合、1 期は 5 月から 7 月の終わりぐらいまで、それから 2 期が 9 月から 11 月の終わりぐらいまでで、今は中間ですから生徒に顔を会わすことがないので、僕の方から手紙で問題を出して、後は返信用の封筒を入れて答えを出して来い、直してやるからという事でやっています。

それが今の子供は、返信用の封筒と言う意味が分からないのです。「メールはないのですか」と言うので、「あるかい。そのようなものは」と言うのです。僕はああいうのはだめだし、それから携帯も持ちませんからね。「何で持たんの」と言うので、「家を出てから帰るまでは戦場なんよ。乱されとうもないし乱したくもないしの」と言って

いる。だから、ちょっと何か現代の人間のような目では見てもらえませんね。そう言う訳で今も郵便でやり取りをやっております。

やっとならも、初めは封筒だけを入れていたのが、今では自分が名前を書いて切手を貼るものだと分かったようです。先生によるとメールで送ればすぐメールで返ってくるので便利がええという方もいます。僕には、そんなものあるかいやと言う感じです。そのよう状態なんで、心配してパソコンの「貴方でも出来る」とかいうようなパンフレットをくれたりするけれど、見る気は全然ありません。

健康面のことですが、僕は幸い立ったり座ったりという運動は時々ライトスタンドでやっております。相変わらず成長していないと言う風に思われるかも知れませんが、優勝の味がねやっぱり忘れられなくてね。でもやはり、ちょっと優勝は無理でしょうね。球団に金が無いから。

歩く事は心がけているけれど、だんだん歩く時間も短くなっています。この間もちょっと街を歩いていたら、何かどこかの車から手を振っているような感じがして、あれっと思たら佐藤先生でした。まあ男にも気がつくのかなと思って、ありがたいものだと思います。信号が変わってもまだ手を振っておられましたので、危ないなとちょっと思ったわけです。

話は修道の現役時代に戻りますが、入試の時にコピー機を借ります。ものすごい速度でコピー機がナンバーを入れながら印刷してくれるわけですが、ある温度まで上ったらこれ以上動いてはいけないと、ものすごく切りが悪いところで止まる時があるんです。998枚とかで。後2枚だったらパツパツとすぐ何とかできるのと思うのですが、止まって3分くらい待たねばいけないわけです。それでは融通がきかないと思いますけども、機械はもうこれ以上動いたら危ないというのが分かるのです。

機械と違って人は誰しも今日ついでにこれだけは、やって寝ようと言う事がありますよね。体調が悪いから1週間これは後に延ばそうと言う風に中々出来ない事がありますね。だから考えてみると、やっぱり機械にも教えられると言うことがあるなと思います。

人と人との関係では難しいこともあるかと思いますが、まあやはり健康第一ですから、調子が悪いと思ったら健康を優先してください。どうかいつまでも元気にやってください。

今日はどうもありがとうございました。

## 司会

ありがとうございました。それぞれ味わい深い話、ありがとうございました。皆さんも四十数年前の授業を思い出しておられる事と思います。

それでは乾杯に移りたいと思います。当初、参議院議員の峰崎さんを予定しておりましたが、到着が遅れているので、この会は遠方からお越しの方に乾杯の音頭をとっていただくと言う事で、関東の修道15回生の世話をされたことのある菅さんをお願いをしたいと思います。近況報告を兼ねてお願いいたします。

## 菅義孝君あいさつ

菅です。今日は峰崎君の、あっ来た来た・・・(峰崎君が会場の入り口に姿を)、峰崎君の代役ではちょっと役不足なのですが、今日は会費も払ったから、ただ来て飲んで帰ればいいのかと思っていたものですけど・・・。

東京にいても中々広島弁が抜けないもので、丁度1月くらい前に高校の時の1つ後



輩のN君と朝村（居酒屋を経営）のところで飲んでいました。そのN君の奥さんが東京の人なのですが、広島弁はもの凄い表現が豊かだと言われるんです。「歯が走る。歯が痛いのではなく歯が走る」「腹が苦る。腹が痛いではなく腹が苦る」というような話になったんです。その奥さんがですね、天満屋で醤油がこぼれるやつがありまして、こぼれんやつはないですかと言ったら、天満屋の女の人が、「よぼわんやつですか」と言ったらしいのですよ。「よぼわん」いう言葉はわしも分からん。朝村も「わしも知らん」と言うのです。お前ら江田島弁ではないかと言う話をしたのですが……。この間、求平が倒れて求平のところへ見舞いに行って、お前、こういうのをどうするか知っとるかと言うと、それは「よぼう」じゃろうと直に間髪を入れずに言うのです。舟入と江田島の言葉ではないかと大笑いしたんです。

その奥さんは東京の人で、東洋英和を出ているのですが、N君と知り合った時に、奥さんが、学校の話がされた時に東洋英和ですと言ったらしいんです。そうするとN君が、ああ東洋英和は、わしが英語の時に辞書で世話になりましたと言ったら、奥さんに私の学校は辞書なんかを作っている学校ではないと怒られたらしいんです。

「よぼう」と言うのが分かる方はいらっしゃいますか。（何人か手を上げる）わしが知らなかっただけのようです。ともかくその話から、今度は修道の制服が変わったという話になりまして、ちょっとがっかりしたんです。ブレザーか何かになつたらしいんですね。

僕らは東京にいて、いつも修道の事が気になって、東京にいてどこの出身ですかと聞かれると、胸張って広島ですと言えるのです。それは修道を出ていると言う気持ちが中にあるから言えるんだと思うんです。

サッカーの話ももさつき出ましたけれども、なかなかサッカーも全国大会に出てこん。できれば私立ですからサッカーのいい選手を入れてほしいですね。サッカーの上手い人は勉強も出来ると思いますし。そうして是非全国大会に出てもらいたい。制服を直すのもいいですけども、伝統は守っていただきたいんです。このことを広島に在住しておられる皆さんに是非ともお願いしたいと思います。

それでは乾杯の音頭を。

## 司会

それでは皆さんビールを注いで、ちょっと立っていただきましょうか。

## 菅義孝君

僭越ではございますが、まず皆さんのご健康と修道の発展を祈念しまして乾杯したいと思います。

乾杯！

（拍手）

## 司会

ありがとうございました。これからゆっくりご歓談いただきたいのですが、タッチの差で到着されました峰崎さん、今国会で活躍されていますので、一言ごあいさつをお願いいたします。

## 峰崎直樹君あいさつ

どうもすみません、遅くなりまして。札幌からの直行便というのは5時半に広島空

港に着くので、少し遅れるのは分かっていたのですが、何とか渋滞を免れて今駆けつけてまいりました。

ほんとうに、どんな雰囲気なのかなとよく分からないままに話をさせていただくんですが、私も参議院議員に当選して11年目と言う事で、来年は3期目の挑戦ということになります。今公認申請をしておりますけれども、多分公認になるだろうと思います。

その前に、どうもこの秋から来年の7月にかけて今のままの政党でそのままいけるのかどうか非常にきな臭くなってきたなというのが率直な状況です。私の属している民主党は、小沢一郎さんの自由党と合流するという事で、かなり支持率を上げてきています。そうした中、自由民主党の総裁選挙もかなりきな臭くなってまいりました。

わが先輩の亀井静香さんも、かなり大きな声を上げておられますけれども、本当に亀井さんで一本化できるかと言うと、ちょっと難しそうだなと言うふうには思います。それでも今着々と総裁選への準備をすすめられているようですね。私は政治の世界に11年間いて、悪い事を考える人間というか、権力を目指す人間と言うのは、どんな事でも考えるというのが普通のように思いました。私は修道でそういうことを教わってこなかったものですから、余りそういう道に私自身は染まっていなつもりです。

それにしてもこの秋に解散総選挙も予想されておまして、一体どうなっていくのか分かりませんが、これから先は有権者の皆さんの負託に応える以外にないのじゃないかと思っております。そうした思いで私も来年7月、参議院選挙に挑戦するわけがありますけれども、私の立場からすれば民主党という政党が次の衆議院選で初めて政権を取って、来年の参議院選でもまた勝利をする、こう言うふうになって初めて日本の政治が面白くなるのかなと言うふうに思います。

この広島県の地では自由民主党が中々強い地盤を誇っておりますので、そう簡単ではないと思いますが、それでも私たちの後輩であります松本大輔君（42回生・広島2区から衆議院議員に立候補予定）のように、まだ30歳そこそこで、衆議院議員に挑戦します。こうした若い優秀な人が私たち民主党の周りにはいるな、修道健児もこれから活躍する人たちが私たちの周りに広がり始めているな、ということを実感しております。彼には是非とも頑張って当選してほしいものだと願っております。

今日は恩師の先生方がお見えになっておられまして、今から40前の事を思いだすわけでございますけれども、大変お世話になったなということをお借りしましてお礼を申し上げます。また同級生の皆様方には、いつも私を応援をいただき改めて感謝を申し上げます。是非来年の7月の参議院選挙に向けて更に一層のご支援をいただければ大変幸いです。

こんな事を申し上げまして、ちょっと型どおりのあいさつになりましたけれども、一言皆さんに国会の報告となりませんけれども、ごあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

## 司会

それではしばらくご歓談ください。